

# 青森県経済統計報告

平成18年2月6日  
企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（平成18年1月1日現在）…………… 1

県人口	1,434,907人（対前月718人減少、対前年同月14,825人減少）
自然動態	418人減少（出生者数790人、死亡者数1,208人）
社会動態	300人減少（転入者数1,184人、転出者数1,484人）

## 2 本県の経済動向

### （1）経済概況

本県経済は、依然として厳しい状態にあるものの、生産面を中心に、需要面や雇用面でも改善の動きがみられる。

### （2）主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の 平成17年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調 …… 2  
生産動向 整済指数が94.9で、前月比4.8%の低下となり、4ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は99.5で、前年同月比4.6%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。

（化学工業を除いた指数では、季節調整済指数が94.7で、前月比5.3%の低下（2ヶ月ぶり）、原指数が101.4で、前年同月比5.6%の上昇（4ヶ月連続）となった。

(2-2) 雇用情勢 平成17年11月の定期給与は234,362円で前年同月比2.3%減となった。 …… 3  
総実労働時間は161.5時間で前年同月比1.2%減、所定外労働時間は9.6時間で前年同月比増減なしとなった。

平成17年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.44倍で、前月より0.01ポイント改善した。

(2-3) 物価 平成17年12月の青森市消費者物価指数は、102.6となり、前月と比べ …… 4  
0.3%の上昇、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。

(2-4) 個人消費 平成17年11月の大型小売店販売額は144億8千7百万円で、全店舗ベ …… 5  
スが前年同月比2.6%増で30ヶ月ぶり、既存店ベースが0.6%増で21ヶ月ぶりで前年を上回った。

平成17年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,402台で、前年同月比16.4%の減となり2ヶ月連続で前年を下回った。

(2-5) 住宅建設 平成17年12月の新設住宅着工戸数は620戸で、前年同月比10.7%減と …… 6  
なり、2ヶ月ぶりで前年を下回った。

(2-6) 公共投資 平成17年12月の公共工事請負金額は、前年同月比46.3%減となった。 …… 6

### （3）景気動向指数（平成17年11月分）…………… 7

先行指数	44.4%（2か月連続で50%を下回った）
一致指数	55.6%（2か月ぶりに50%を上回った）
遅行指数	33.3%（2か月ぶりに50%を下回った）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（平成18年1月期）…………… 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI …… 46.9（前期比6.1ポイント増、19期連続50を下回る）  
3ヶ月後の景気の先行き判断DI …… 49.2（前期比5.6ポイント増、7期連続50を下回る）

# 1 青森県の推計人口（平成18年1月1日現在）

## 【概 況】

平成18年1月1日現在の本県推計人口は、1,434,907人で、前月に比べ718人の減少、前年同月に比べると14,825人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が790人、死亡者数が1,208人で、418人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が1,184人、転出者数が1,484人で、300人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	対前月増減率		増減数	自然増減数			社会増減数			
		男	女		出生者数	死亡者数	県外からの転入者数	県外への転出者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.1.1	1,449,732	687,374	762,358	-0.034%	-487	-343	879	1,222	-144	1,275	1,419
17.2.1	1,448,945	686,936	762,009	-0.054%	-787	-507	913	1,420	-280	1,237	1,517
17.3.1	1,448,216	686,552	761,664	-0.050%	-729	-339	849	1,188	-390	1,233	1,623
17.4.1	1,441,447	682,719	758,728	-0.467%	-6,769	-668	854	1,522	-6,101	4,133	10,234
17.5.1	1,441,973	683,207	758,766	0.036%	526	-476	818	1,294	1,002	4,425	3,423
17.6.1	1,441,389	682,825	758,564	-0.041%	-584	-301	956	1,257	-283	1,693	1,976
17.7.1	1,440,721	682,329	758,392	-0.046%	-668	-320	831	1,151	-348	1,434	1,782
17.8.1	1,440,005	681,879	758,126	-0.050%	-716	-227	844	1,071	-489	1,906	2,395
17.9.1	1,440,226	681,995	758,231	0.015%	221	-258	1,007	1,265	479	2,513	2,034
17.10.1	1,436,628	678,989	757,639	-	-542	-149	942	1,091	-393	1,738	2,131
17.11.1	1,436,285	678,775	757,510	-0.024%	-343	-259	931	1,190	-84	1,777	1,861
17.12.1	1,435,625	678,406	757,219	-0.046%	-660	-366	863	1,229	-294	1,323	1,617
18.1.1	1,434,907	678,029	756,878	-0.050%	-718	-418	790	1,208	-300	1,184	1,484

12月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平8.12	9.12	10.12	11.12	12.12	13.12	14.12	15.12	16.12	17.12
自然動態	出生者数	1,120	1,060	1,053	1,000	1,015	976	898	896	879	790
	死亡者数	1,116	994	1,048	1,089	1,065	1,192	1,162	1,144	1,222	1,208
	自然増減数	4	66	5	-89	-50	-216	-264	-248	-343	-418
社会動態	県外からの転入者数	1,497	1,445	1,554	1,309	1,433	1,497	1,370	1,364	1,275	1,184
	県外への転出者数	1,439	1,272	1,495	1,261	1,385	1,370	1,612	1,531	1,419	1,484
	社会増減数	58	173	59	48	48	127	-242	-167	-144	-300

※1 平成2、7、12年は国勢調査人口(確定値)。

※2 平成16年11月1日から平成17年9月1日までの人口は平成12年国勢調査人口(確定値)を基礎に、平成17年11月以降の人口は平成17年国勢調査人口(要計表による人口)を基礎に推計している。

※3 増減数は、平成2、7、12年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 平成17年10月1日現在の人口は、平成17年国勢調査人口(要計表による人口)を用いているため、9月1日現在推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

※5 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

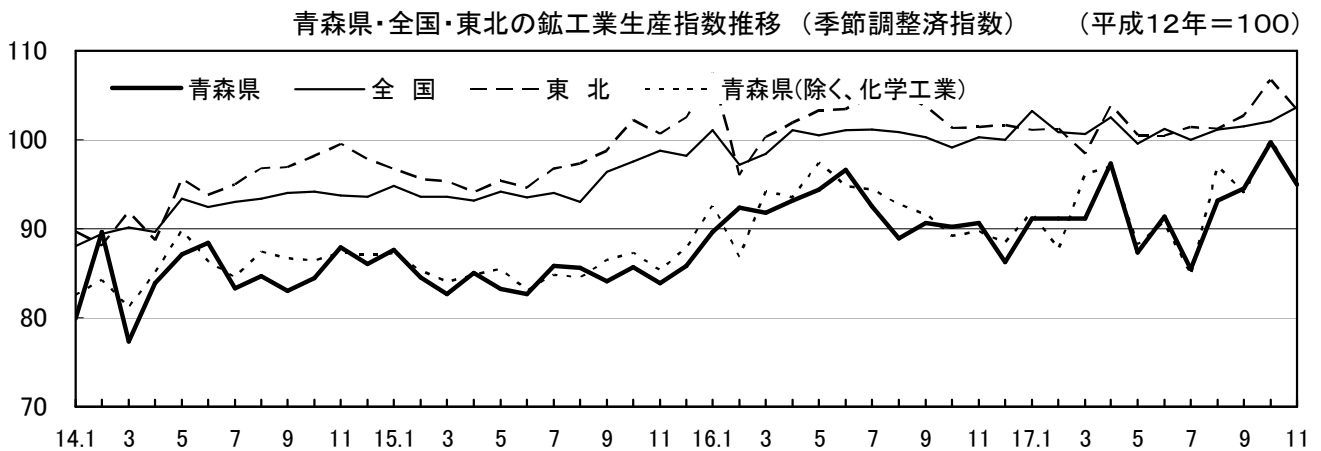
#### (2-1) 製造業の生産

平成17年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が94.9で、前月比4.8%の低下となり、4ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は99.5で、前年同月比4.6%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、鉄鋼業、金属製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、電子部品・デバイス工業、化学工業などが低下し、鉱工業全体では4.8%の低下となった。

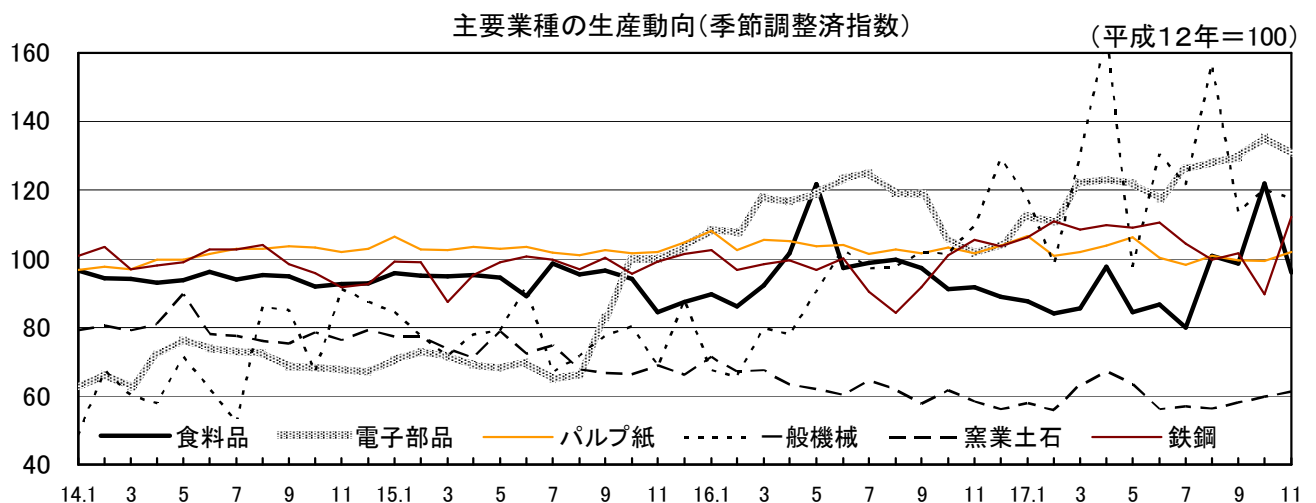
(化学工業を除いた指数について)

季節調整済指数が94.7で、前月比5.3%の低下(2ヶ月ぶり)、原指数が101.4で、前年同月比5.6%の上昇(4ヶ月連続)となった。



◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -4.8%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
鉄鋼業	25.2	20.1	食料品工業	-21.3	-113.5
金属製品工業	12.6	6.2	電子部品・デバイス工業	-3.7	-10.0
パルプ・紙・紙加工品工業	2.6	3.6	化学工業	-6.5	-8.0
家具工業	80.3	2.4	一般機械工業	-2.1	-2.5
窯業・土石製品工業	2.7	1.6	鉱業	-9.4	-2.0



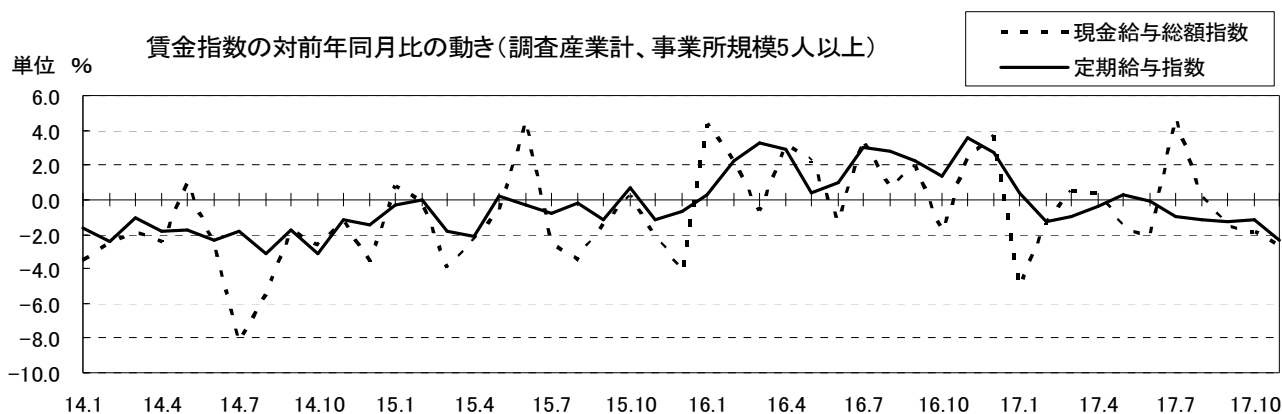
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用情勢

平成17年11月の定期給与は234,362円で定期給与指数(平成12年=100)では98.7となり、前年同月比2.3%減(現金給与総額238,453円、現金給与総額指数82.6、前年同月比2.6%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は85.4となった。

所定外労働時間は9.6時間で、所定外労働時間指数では111.6となり、前年同月比増減なしとなった。

平成17年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.44倍で、前月より0.01ポイント改善した。



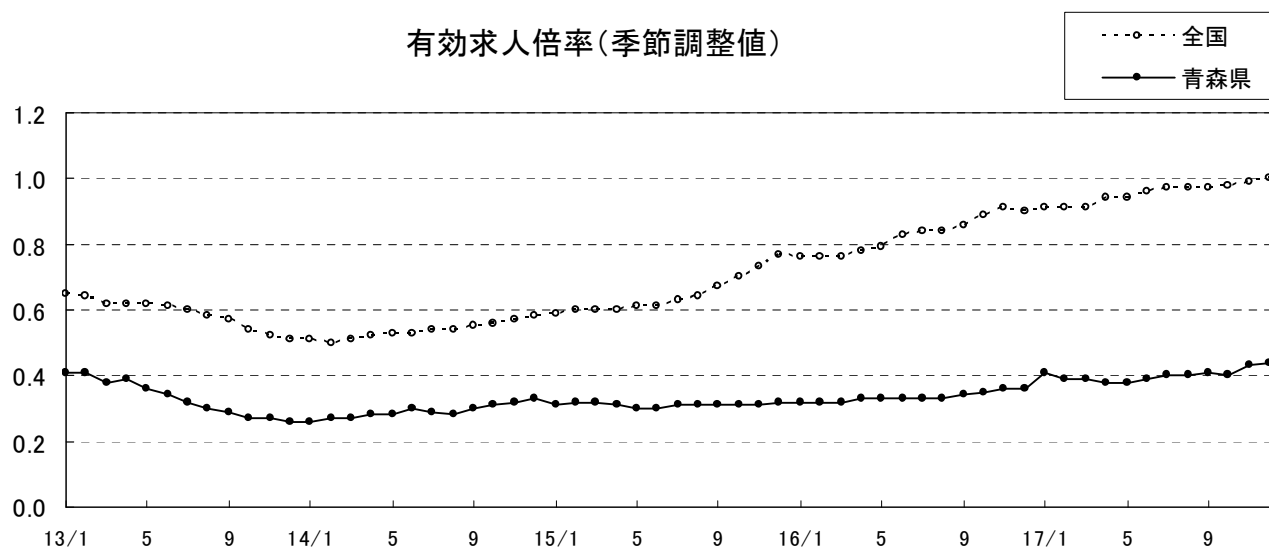
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	238,453 円	292,278 円	82.6	82.7	-2.6 %	0.1 %
定期給与	234,362 円	274,447 円	98.7	97.3	-2.3 %	0.6 %
特別給与	4,091 円	17,831 円	—	—	—	—
総実労働時間	161.5 時間	152.8 時間	102.0	99.3	-1.2 %	-0.4 %
所定内労働時間	151.9 時間	142.1 時間	101.3	98.6	-1.4 %	-0.4 %
所定外労働時間	9.6 時間	10.7 時間	111.6	109.2	0.0 %	0.0 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

### (2-3) 物価

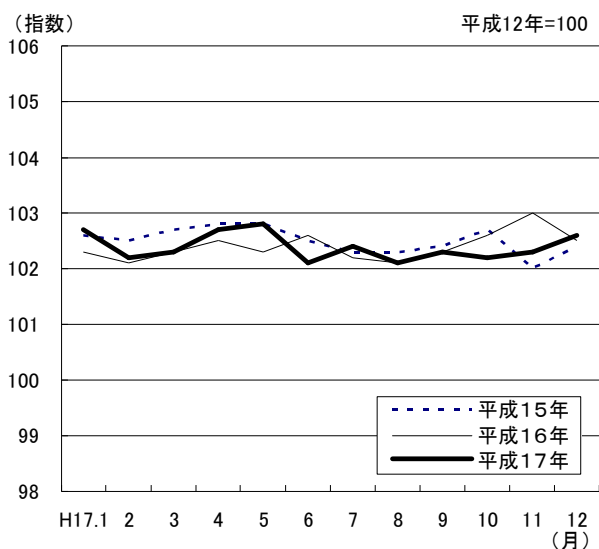
平成17年12月の青森市消費者物価指数(平成12年=100)は、総合指数が102.6となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は103.1となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.4%の上昇となった。

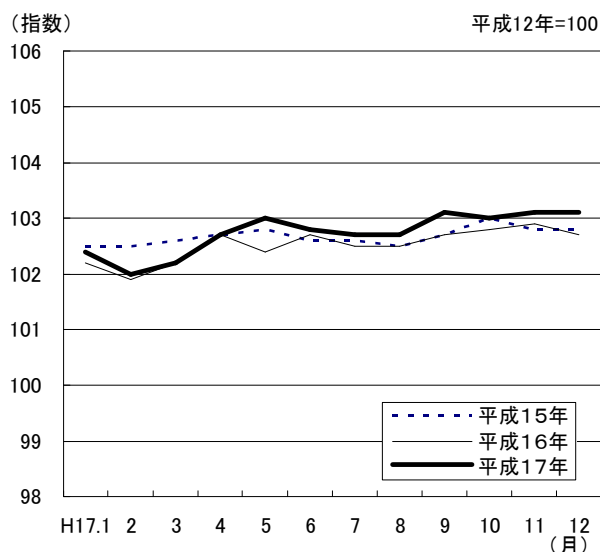
総合指数の前月比が0.3%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、食料などの上昇が要因となっている。

総合指数の前年同月比が0.1%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、住居、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

総合指数の動き



生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成12年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服 及び履き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	娯楽	諸雑費
当月指数	102.6	103.1	97.9	96.9	92.6	123.0	109.7	77.3	90.0	104.6	96.9	110.9	89.5	99.5
前月比 (%)	0.3	0.0	0.3	1.0	5.8	0.1	▲ 1.6	▲ 0.6	1.7	0.2	▲ 0.1	0.0	0.7	0.0
寄与度	0.30	0.00	0.25	0.28	0.27	0.02	▲ 0.15	▲ 0.02	0.09	0.01	▲ 0.01	0.00	0.05	0.00
前年 同月比 (%)	0.1	0.4	▲ 0.6	▲ 2.4	▲ 6.9	2.2	5.6	▲ 3.0	▲ 3.5	0.0	▲ 0.6	1.8	▲ 0.6	0.1
寄与度	0.10	0.37	▲ 0.50	▲ 0.66	▲ 0.36	0.54	0.47	▲ 0.08	▲ 0.20	0.00	▲ 0.06	0.07	▲ 0.05	0.00

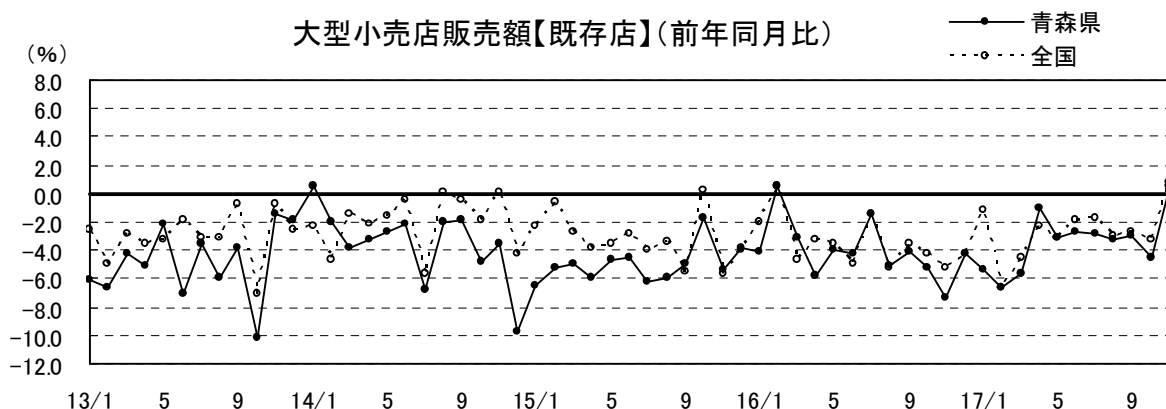
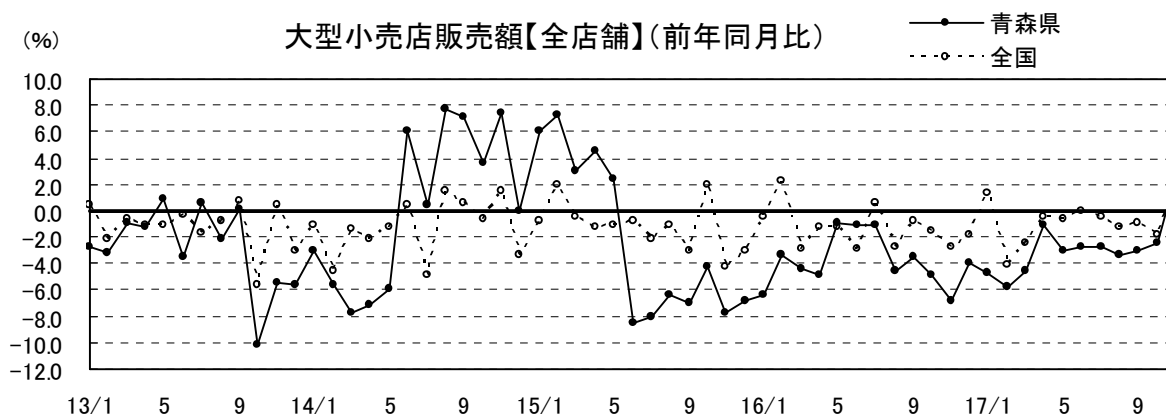
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」(速報)

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

## (2-4) 個人消費

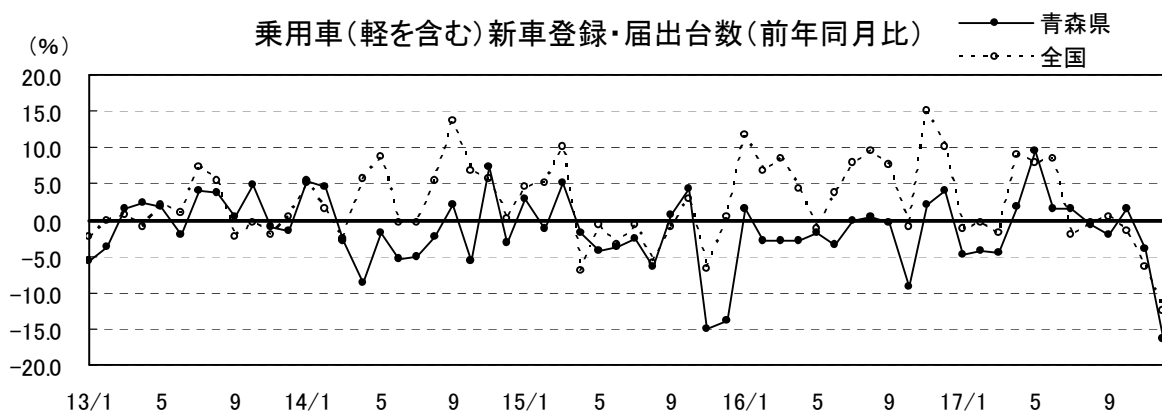
平成17年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが前年同月比2.6%増の144億8千7百万円で30ヶ月ぶり、既存店ベースが0.6%増で21ヶ月ぶりにいずれも増加となった。例年より冷え込みが早かったことからコートやブーツなどの防寒用品、酒類、鍋物食材などの飲食料品が好調だったことによる。

平成17年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,402台で、前年同月比16.4%減となり2ヶ月連続で前年を下回った。普通車が7ヶ月連続、小型乗用車が3ヶ月連続のマイナスで、軽自動車も3ヶ月ぶりにマイナスに転じたことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

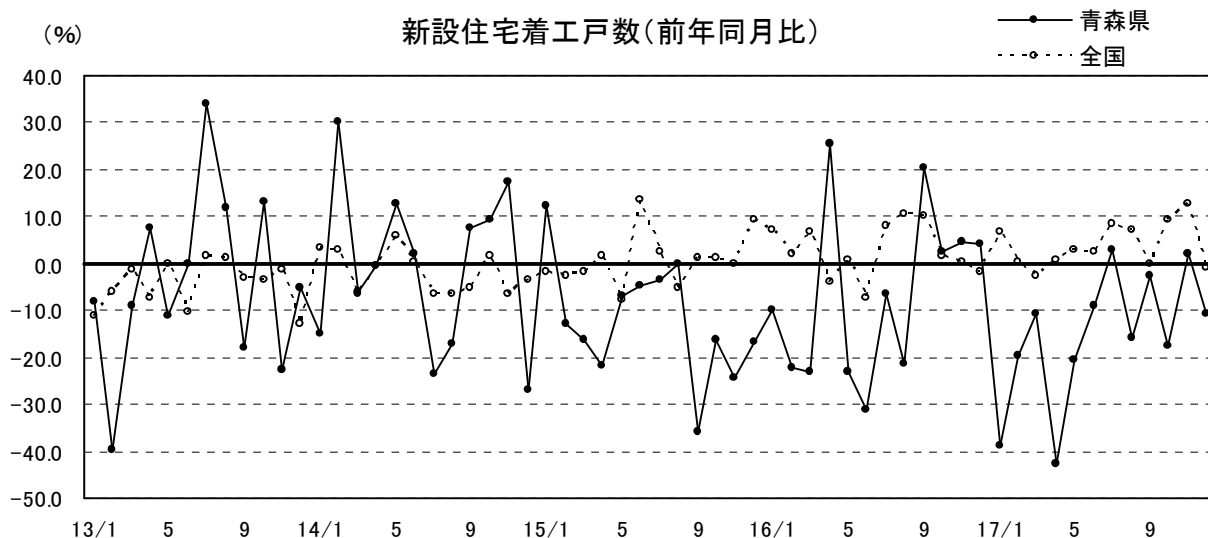
\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

## (2-5) 住宅建設

平成17年12月の新設住宅着工戸数は620戸で、前年同月比10.7%減となり、2ヶ月ぶりで前年を下回った。貸家がプラスだったものの、持家と分譲がマイナスだったことによる。

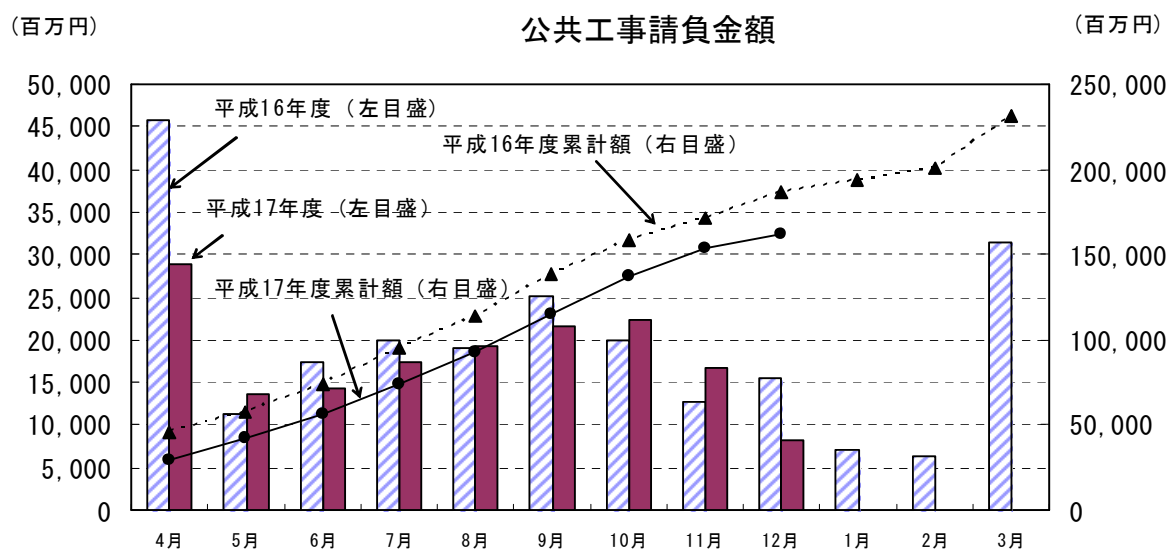


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

## (2-6) 公共投資

平成17年12月の公共工事請負金額は、83億2千2百万円で前年同月比46.3%減となった。発注主体別では、国が78.3%減、県が33.2%減、市町村が22.7%減、その他が63.5%減で、全ての発注主体で前年比マイナスとなった。

また、4月からの累計では13.1%減となっている。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

### (3) 青森県景気動向指数

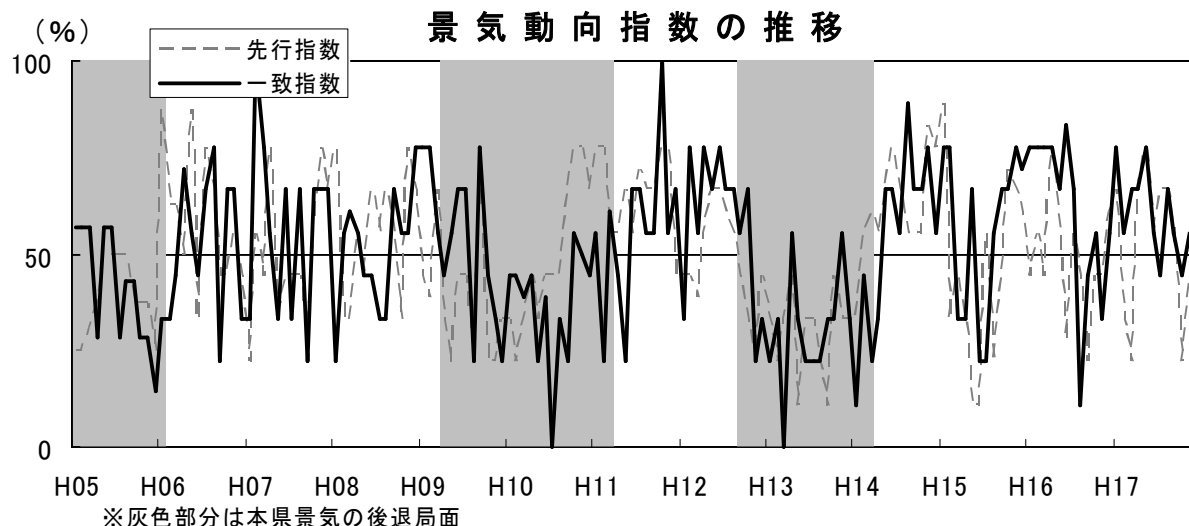
平成17年11月の青森県景気動向指数は、先行指数44.4%、一致55.6%、遅行指数33.3%となった。

先行指数は、2か月連続で50%を下回った。

一致指数は、2か月ぶりに50%を上回った。

遅行指数は、2か月ぶりに50%を下回った。

11月の一致指数は、生産関連の指標等がプラスとなったことから、50%を上回った。



#### ●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
<b>先行系列（9指標中4指標がプラス）</b>			
生産財生産指数	2か月ぶり	乗用車新車登録届出台数	3か月連続
所定外労働時間指数（全産業）	3か月連続	新規求人倍率（全数）	2か月連続
新設住宅着工床面積	2か月ぶり	入職率（製造業）	3か月ぶり
企業倒産負債額	3か月ぶり	建築着工床面積（鉱+商+サ）	3か月連続
		中小企業景況D I	3か月連続
<b>一致系列（9指標中5指標がプラス）</b>			
大型小売店販売額（既存店）	3か月ぶり	総実労働時間数（全産業）	4か月ぶり
鉱工業生産指数	2か月連続	海上出入貨物量（八戸港）	7か月連続
電気機械生産指数	2か月ぶり	東北自動車道IC利用台数	2か月連続
大口電力使用量	2か月ぶり	日銀券月中発行高	2か月ぶり
有効求人数（全数）	27か月連続		
<b>遅行系列（6指標中2指標がプラス）</b>			
常用雇用指数（製造業）	4か月連続	勤労者世帯家計消費支出（実質）	3か月連続
輸入通関実績（八戸港）	2か月連続	1人平均月間現金給与総額	2か月ぶり
		単位労働コスト（製造業）	2か月連続
		青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	2か月連続

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」



#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

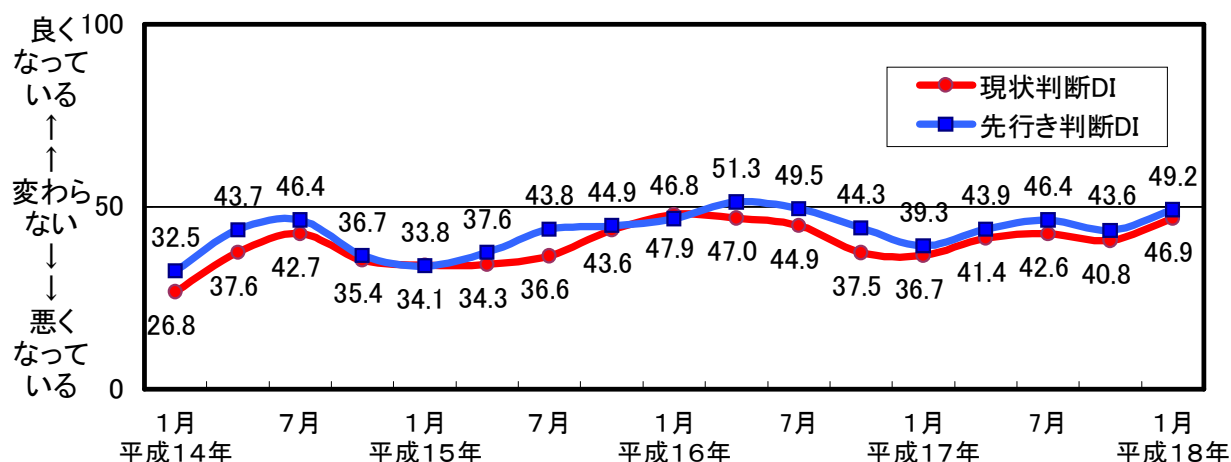
平成18年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月5日～1月19日を調査期間とし、回答率96%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは46.9で、前期調査より6.1ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは49.2で、前期調査より5.6ポイント上回った。

1月期は、現状判断DI、景気の先行き判断DIとも横ばいを示す50を依然下回っているものの、上昇基調にある。

#### 景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



#### ● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が11.7ポイントと大幅に増加し、「やや悪くなっている」が6.8ポイント減少していることにより、全体では6.1ポイント増の46.9となり、引き続き横ばいを示す50を下回っているものの、増加に転じた。</p> <p>判断理由をみると、冬が例年より早かったことにより冬物商品の売り上げが好調であったことなどから景気の上向き感が見られるとする声がある反面、暖房費の増による生活防衛等のため依然消費が鈍く、全体としては好転しているとは言えないとする声も多数見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、県内全ての地区でポイントが増加に転じた。全ての地区で「やや良くなっている」が増加しており、特に東青地区では21.0ポイントと大幅に増加している。</p>

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が4.5ポイント増加し、「やや悪くなる」が7.8ポイント減少していることにより、全体では5.6ポイント増の49.2となり、引き続き横ばいを示す50を下回っているものの、増加に転じた。</p> <p>判断理由を見ると、中央で景気回復傾向にあるとの報道を踏まえ、消費や雇用状況にやや回復の兆しが見えることをあげ、今後その波及を期待する声があるものの、本県においては未だその効果は一部にとどまっており、全体としてはまだ具体的な景気回復の材料はみつからないとする声も多数見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、県内全地区でポイントが増加に転じた。特に東青地区で51.7、県南地区で50.9と横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

## (参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

### ● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- バーゲンが始まってから少しよくなっている様に感じられる。天候の変化によって必需品のコート・セーターの動きがある。(衣料専門店=東青)
- デジタル放送も徐々に浸透し、購入金額が高額であっても性能面でワンランク上を選ぶ傾向の為。(家電量販店=県南)
- 大企業の好況の余波がある。株価等の上昇で心理的に景況感が良くなっている。(経営コンサルタント=県南)
- 依然として横ばい状態。12月から寒さも厳しく、暖房費が増大し、生活防衛と備えから一般消費が低迷している。(商店街=県南)
- 必要最低限しか物を買わないという傾向は変わってないと思われます。値下げした商品でも必要なければ買ってはもらえません。灯油高の影響も少しあるかもしれません。(一般小売店=下北)
- 当社としては大きな変動はみられなかった。一部季節商品を中心に売り上げ好調との報道あるものの、本県の雇用情勢は依然厳しく、全体的底上げにはほど遠い感じがする。(人材派遣=東青)
- △11月～12月にかけての年末関連は駆け込み需要で売り上げ伸ばすも、年明けてからは例年にない雪と寒さで客数が大幅にダウンしているため!(コンビニ=県南)
- △米・りんごが豊作だが、価額が伸びない。公共工事、住宅建設が依然前年比マイナス。個人消費も伸びない。有効求人倍率も最下位を脱したものの依然低迷。(経営コンサルタント=東青)
- ×諸々の経済指標に関係なく、景気の悪くなっている人の数が増えている。年末売り出しイベントに人が集まらなくなりました。結局高いものは勿論、安いものも売れなくなっています。(飲料品製造=県南)

### ● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 首都圏での数値、南東北での数値から判断し、数ヶ月遅れて北東北・本県にも波及するものと推察します。(百貨店=東青)
- 株や、百貨店の福袋景気や、雇用が少しずつ回復しつつあるように見えてきたので、多少でも安心感の分サイフの紐がゆるんで来るのでは…(美容院=県南)
- 全国的には夙に回復し、一部の地域とか特定の業種にあってはバブルの再来かといわれる状況になっている。その波及効果がようやく顕現化されて来たとみられる。建築工事については、小口化しているものの、引合は増加傾向をみせている。このようなトレンドが続くものと考えられ、景況感はさらに改善されよう。(建設=東青)
- 株式市場だけ異常に上がっているが、一部の業界だけ良くなっているようで、おおかたの民間零細企業まで景気が上向いているとは思えない。(ガソリンスタンド=津軽)
- 人口密集地域だけが勝ち組の感がする。輸出主導型から内需主導になれば変わると思うが、地方は行政主導が無ければ景気の浮揚はない。(設計事務所=県南)
- マスコミで株価の上昇等を理由に景気が少し上向きと報道されたり、都心部のデパートが正月は2ケタで売り上げアップ等と聞いたりするが、地方(青森県)では良くも悪くもそれらの報道から半年～1年遅れて影響が出るのがこれまでの常である。(一般小売店=県南)
- 地方の中小企業に一部を除き活況感がない。小さな小売店の閉店がよく見られる。だからといって量販店は賑わっているけど買い物袋が小さく、売れている様子ではない。値引きがやたら目に付く。(食料品製造=県南)
- △中央の好景気がマスコミ報道されてはいるが、我々の周りで恩恵を受けている企業は皆無です。まだまだ地方は不景気です。(旅行代理店=東青)
- ×株価が上昇し景気が上向いていると言われるが、大企業の勝ち組やマネーゲームの投資家に惑わされているようで、当地では実感が無い。地方は不景気という豪雪に今にも押しつぶされそう…(体力勝負)。3月の雪解け時には雪崩に巻き込まれる企業も出そう…な気配。(商店街=県南)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」